

フブ・服部の中国通信

ベトナム石種にご用心？

ご無沙汰しております。

5月も月末となり、相も変わらず慌ててキーボードを叩いている服部でございます。

消費税増税の煽りも受けてか4月末～今月中旬くらいまで、少々手が空いておりましたが、おかげさまで徐々に仕事量も回復、いよいよシーズンだなぁ～と気を引き締めているところであります。それでは今回もよろしくお願いいたします。

「ベトナム」石種にご用心

最近福建省各所にて、「ベトナム(越南)」の名を冠する石種が出回り始めています。

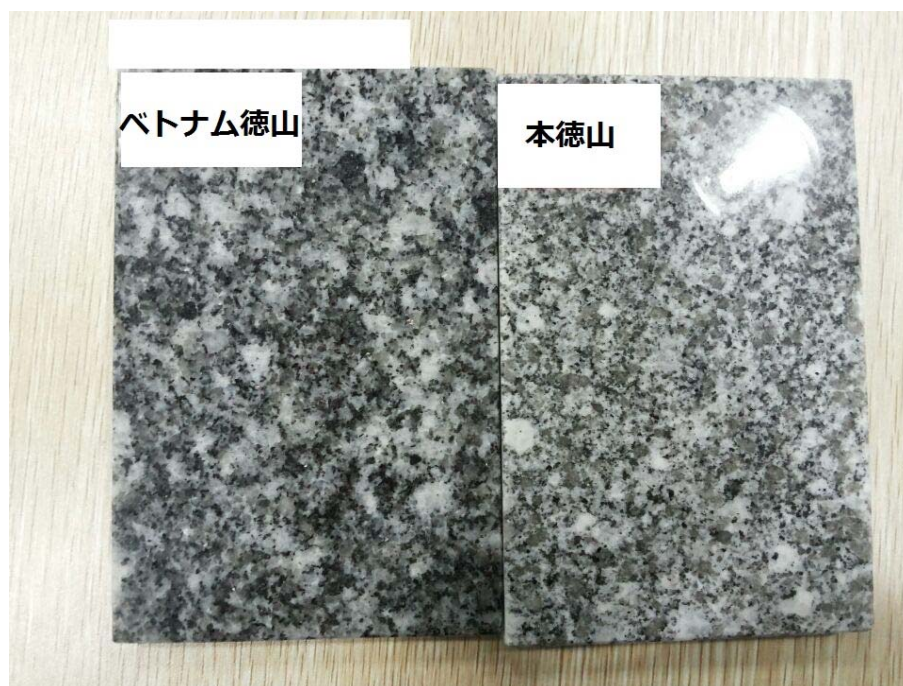
ところがこれ、ベトナム産とは限りません。もちろん中には本当にベトナム産のものもあるかもしれませんが、おそらく輸入材のように思わせて付加価値をつける戦略もあるのでしょう。

ベトナム(越南)何某という石が実は中国産だった。というお話にこの約1ヶ月少々間に2度も遭遇しました。

私個人としても九州市場向けに狙っていた山口県の徳山石似の石があったのですが、調査したところ産地は中国とベトナムの国境付近、地図上は中国の広西省に属する地域でした。

中越の国境線で自国の所有を主張したいごことが絶えないのを考えればなんと皮肉な話です。

下の写真がベトナム徳山石と名付けられた石と山口県の徳山石の比較写真ですが



実は私、インド諸外国担当のサトーといわゆる「ベトナム徳山石」の丁場に行った事があります。最初にこの石の情報を入手した時、まずサトーと話をしたのですが、その結果やはり「何か違うよね？」という流れになったのが疑問を持ったきっかけです。とはいえ、さすがに堂々とベトナム（越南）を名乗っている石が中国産だとは思いませんでしたが（苦笑）。

また南安地区でも「越南黄」なる原石に遭遇したことがあります。通常、中国で石種名に「黄」とつくと、鑄石またはそれに類する石を指します。ベトナム鑄はとても綺麗な鑄石なのですが、現在ベトナム政府の政策として原石の輸出が許可されていないという事情を聞き及んでいたので「ついにベトナム鑄が入って来たか！」と胸躍らせたものです。しかしこれも何かが違う・・・ 詳しく問い詰めるとこれもベトナム産ではなく広東省産の鑄石だったという笑い話です。

産地を聞かれた際に石種名のみを頼りに返答するのは確信が無い限り控えましょうね。という自分自身への戒めも兼ねてのお話でした。

厦門の路地裏ラーメン

厦門の街中、というより路地裏という表現が正しいでしょう。仕入先のXさんに日本式ラーメン店を紹介してもらいました。



店主は日本への留学経験のある方で日本語堪能、餃子等サイドメニューも充実しておりほぼ日本のラーメン店同じイメージで注文できます。

メインのラーメンはとんこつベースの薄味、個人的にはもう少し濃い味付けが好みではありますが全体としてなかなかおいしくいただきました。



ただ、本当に路地裏と表現するのが一番しっくりくるような立地条件、まず大半の日本人はたとえ廈門在住の方でも存在すら知らないでしょう。また価格設定も現地の方が通常食べる食事よりは少々割高。それだけに売上也思うように上がっておらず苦戦気味の様ですが、味は悪くないので廈門でラーメンが恋しくなったら一度お試しくださいませ。

場所はこちらです。



念のために言っておきますが、この店が流行っても私にバックマージン等は一切入りませんので（笑）。

それではお後がよろしいようで。

また来月お会いしましょう。再見！

2014年6月